

## 老人ディスコ・・・ハルピンの朝

ハルピン(哈爾濱)市について翌朝、「朝市に案内します」と言われ起こされた。遅くまで行われた歓迎会で少々寝不足気味だったが、カメラを手にホテルを出た。数分で市内を流れる松花江の河畔に出た。海のような河だと聞かされていたがほとんど水が無く、大きな船が赤く錆びた船底を見せてあちこちに停泊していた。人も少なく、「9月頃になると水かさが増して、辺り一面水で埋まってしまうんです」と言われてもさっぱりイメージがわからず、眠い目をこすっていた。

「スターリン公園に行ってみましょう」と促され足を向けた。公園に入るとすぐ、拡声器から流れるカセットテープの音で眠気も一気に吹き飛んでしまった。大きな樹の葉のトンネルを抜けると、音楽に合わせてたくさんのお年寄り達が、足でリズムをとりながら踊っている光景が目に入ってきた。リーダーがいるようにも見えず、広場の隅にラジカセが置かれていて、それぞれ自分なりの踊りをしていた。コンクリートで整備された公園の広場のあちこちに老人達の輪ができていた。松林の方に目を向けると、そこにも老人達が集まり、気功体操を繰り広げていた。また、松の木に手を押し付けたり足を掛けたりして伸展運動をする姿も見られ、その身のこなし方はとても老人とは思えなかった。また、剣を自由に操りながら踊る老人の姿もあり、朝のスターリン公園は老人の集会場と化していた。昨夜の歓迎懇親会で「今ハルピンで一番流行しているのは“老人ディスコ”です。明日の朝、少し早いですが“朝市”をご案内しますから、先生はその時見ることができます」と言われたがどういうことか分からず、この光景を見て初めて理解することができた。

このスターリン公園は、松花江の河畔に沿って細長く伸びていて市民の憩いの場所となっているが、朝5時から8時までは朝市が立ち、野菜・魚・衣類等のあらゆる物が集められ交換される自由市場になっていると聞かされた。広場に集まり、踊ったり楽しそうに語り合っている老人達の顔は、皆日焼けしていてしわ皺が多かったが、太った人はほとんどいなかった。朝のひと時を健康のために過ごす、喜びの笑顔がそこにはあった。日本でも、老夫婦が仲良くジョギングする姿を見かけることはあるが、こんなにたくさんの人達が踊る光景はあまり見ることはない。しかし、この光景の中で不思議な事と言えば、子どもの姿を見ることがなかったことである。これも、中国で今進められている一人っ子政策(独生子女)の影響かな“と勝手な想像をしながら、自由市場の雑踏の中に足を向けた。市場では、豆乳に揚げパンを浸して美味しそうに食べる人、ムシロに手作り品を広げ必死に売る姿等があった。裕福とは思えない光景であったが、活気がみなぎっており、人々の目は輝いていた。